

医療安全通信 第37号-1

【薬局部医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

併用禁忌の薬剤の投与について

日本医療機能評価機構は、医療事故情報収集等事業「医療安全情報No. 129」で、2011年11月～2017年6月に併用禁忌の薬剤が投与された事例が9件報告されているとして、注意喚起しました。

掲載された事例では、「イムラン錠」を内服している患者の尿酸値が高くなり、医師は「フェブリク錠」を新たにオーダーリング画面に入力し、併用禁忌のアラートが表示されたにもかかわらず、入力を継続して処方しました。患者は「イムラン錠」と「フェブリク錠」を2ヶ月間内服した後、めまい、ふらつき等の症状が出現し、併用による骨髄抑制であることが判明しました。この時、**保険薬局からの疑義照会はありませんでした。**

別の事例では、静脈血栓の患者に、循環器内科の医師は「ワーファリン錠」3mgを処方し、開始から2日後、口腔内カンジダ症のため皮膚科の医師が「フロリードゲル経口用」を処方しました。「ワーファリン錠」と「フロリードゲル経口用」は、2016年10月に添付文書が改訂され、併用注意から併用禁忌に変更されましたが、薬剤マスタの最終更新はその前月だったため、処方時にアラートは表示されず、**薬剤部からの疑義照会はありませんでした。**「フロリードゲル経口用」の使用2日目、PT-INRが測定不能となり、ヘモグロビン低下と、内視鏡検査で胃噴門部からの出血を認めました。

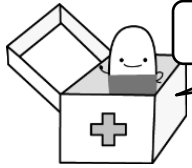
事例が発生した医療機関では、新たに併用禁忌の情報を得た場合、薬剤師が各診療科に周知するほか、速やかにマスタ更新を行いアラートを表示するなどの取り組みを行いました。また、薬剤の保管棚に「併用禁忌あり」と表示すると共に、薬剤師は併用禁忌薬が処方された際に疑義照会を行うよう注意喚起されています。

薬局においては、

- **併用禁忌の薬剤が処方された際、疑義照会を行う。**
- 自薬局で調剤していない併用薬についてもお薬手帳等により確認して薬歴に記入し、相互作用チェックを行う。
- PMDAメディナビ等で、正確な情報を迅速に入手し、添付文書の改訂で新たに併用禁忌になった薬剤の情報を得た場合
 - 薬局内に情報を周知する。
 - 相互作用のアラートを表示するよう、レセコンのマスタ更新を速やかに行う。
- 薬品棚に「併用禁忌」薬品を表示して、注意喚起する。

等、**最新の情報を収集して、適切な処方鑑査、疑義照会**を行いましょう。





医療安全通信 第37号-2

【薬局部医療安全委員会】

日本医療機能評価機構 医療事故情報収集等事業
医療安全情報 No. 129 【一部抜粋】

全文は右記よりご確認ください。http://www.med-safe.jp/pdf/med-safe_129.pdf

併用禁忌の薬剤の投与(第2報)

添付文書上、併用禁忌(併用しないこと)として記載のある薬剤を併用した事例が再び報告されています。

併用禁忌の薬剤の組み合わせ		件数
イムラン錠 (アザチオプリン)	フェブリク錠 (フェブキソスタット)	3
ワーファリン錠 (ワルファリンカリウム)	フロリードゲル経口用 (ミコナゾール)	2
ワーファリン錠 (ワルファリンカリウム)	ケアラム錠 (イグラチモド)	1
リスモダン (ジソピラミド)	アベロックス錠 (モキシフロキサシン)	1
エフビーOD錠 (セレギリン塩酸塩)	ベチロルファン注射液* (ベチジン塩酸塩)	1
オーラップ錠 (ピモジド)	クラリス錠 (クラリスロマイシン)	1

*ベチロルファン注射液の有効成分にはレバロルファン酒石酸塩も含まれています。

◆ワーファリン錠とフロリードゲル経口用は、2016年10月に添付文書が改訂され、併用注意から併用禁忌に変更されました。

事例1

イムラン錠を内服している患者の尿酸値が高くなり、医師は、フェブリク錠を新たに処方しようと思い、オーダリング画面に入力したところ、併用禁忌のアラートが表示された。処方するためにはコメントの入力が必要であり、医師はコメントに「継続」と入力して処方した。保険薬局からの疑義照会はなく、患者はイムラン錠とフェブリク錠の内服を開始した。2ヶ月後、患者にめまい、ふらつき等の症状が出現した。ヘモグロビンが6.8g/dLに低下しており、イムラン錠とフェブリク錠を併用したことによる骨髄抑制であることが分かった。

事例2

患者に静脈血栓があり、循環器内科の医師はワーファリン錠3mgを処方した。ワーファリン錠を開始した2日後、口腔内カンジダ症のため皮膚科の医師がフロリードゲル経口用を処方した。薬剤マスタの最終更新は添付文書が改訂され併用禁忌になった月の前月であったため、処方時にアラートは表示されなかった。薬剤部からの疑義照会はなかった。患者はフロリードゲル経口用の使用2日目、PT-INRが測定不能となった。患者のヘモグロビンは4.3g/dLに低下し、内視鏡検査で胃噴門部からの出血を認めた。